

## 第23回琉球大学医学部医学科同窓会総会

～開催報告と同窓会の今後のあり方について～

琉球大学医学部医学科同窓会会長 蔵 下 要（3期生）



今年は例年になく温かい冬の訪れとなるようですが、医学科同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

去る、7月18日に第23回琉球大学医学部医学科同窓会総会が執り行われました。今年の総会、講演会、懇親会の参加者は71名と残念ながら前年に比べてかなり少なくなっていました。今後、より多くの会員の皆様が参加しやすい総会となります様に、来年度は総会の開催時期や時間帯を含め、再検討を行いたいと考えています。

総会での審議事項の中で決定しました重要な項目をご報告いたします。まず今年度は役員改選の年となっておりますが、評議員会の推薦、総会での承認を経て、会長、副会長、会計の6人全員と監事の松崎俊博さんが留任となり、もうお一人の監事には健山幸子さんが新任で就任することが決まりました。新執行部2期目として2年間の任期を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。次に会費納入に関する会則改正の件であります。終身会費の制度を導入することが承認され、会則第18条の4項として「卒後20年を経過した正会員で、希望する会員は終身会費として10万円を納入することができる」の項目が加わりました。終身会費を納入された正会員には当然ながらその後の会費請求はなく、また同窓会より感謝状を贈呈させていただきます。3つ目は「ネパール大地震に対する支援に関する件」であります。今年4月に発生したネパール大地震に対する支援の依頼が、3期生の岡元のみ子さん、その夫で琉球大学医学研究科大学院修了生（現、ネパール カルナリ医療大学学長）のシェレスタ ダルマ ラジ 氏よりありました。同窓会としては、ネパールで復興にむけて活動（特に貧しい子供達に対する対策）する同窓生をぜひ支援したいと考え、同窓会からの支援策として、募金を集めて寄付することが全会一致で正式に決定いたしました（資料は後の頁に掲載）。おかげさまで徐々に募金が集まっておりますが、10月末現在で目標額にまだまだ及ばない状況であります。1月末まで募集をしておりますので、会員の皆様のご理解とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

総会後の講演会は今年も2部構成で行われました。第1部は恒例となりました卒後20年目の同窓生による講演として、9期生で琉球大学内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 准教授であります友寄毅昭さんに「血液疾患をとりまく医療の進歩と血液内科のやりがい」と題してお話をいただきました。母校の准教授として頑張っておられる友寄さんの講演を聞いて、同窓生としてとても頼もしく感じました。今後、益々のご活躍を期待したいと思います。第2部では4月に新設されました「琉球大学医学部再生医療研究センター」のご紹介を再生医学講座の野口洋文教授にお願いいたしました。今回の企画は、この施設が単なる基礎的研究施設ではなく、沖縄の再生医療の拠点として県内で臨床に携わる同窓生の皆さんにも将来的に利用してもらえる施設となることから、その概要を同窓生の皆様に広く知っていただきたいと考えて行ったものであります。沖縄の患者さんがこのセンターを通じて、再生医療の恩恵を受けられる日もそう遠くはないであろうと感じられました。

さて、琉球大学医学科同窓会も発足から23年目を迎え、3月には第30期生が卒業します。懇親会の会長挨拶の中でも述べさせていただきましたが、医学科同窓会が今後何のために存在するかということ考えたとき、キーワードとなるのは「連携」ではないかと思います。沖縄県内の医師の4割以上を琉大の同窓生で占めるようになった今日、医学科同窓会はもはや単なる親睦のための会ではなく、この会を通して、母校や沖縄の医療界、そして社会に対して何らかの貢献していく役割を担っているのではないかと考えます。そのために、同窓生同士や医学部との連携はもちろん、医学部附属病院、県立病院、民間病院、診療所といった県内の医療施設間や医師会との連携、国内や海外の医療機関との連携、更には琉球大学本学や行政機関といった様々な領域との連携が必要となってくるでしょう。昨年は母校に同窓生から初の教授が誕生しました。今年は母校に新たに4人、また他大学にも琉大出身の准教授が次々と就任しています。公立病院や民間病院の院長、また医師会や医療行政機関の要職にも同窓生が就任しご活躍されています。このような状況の中で医学科同窓会は、利害関係のない中立的な立場において、多くの同窓生との繋がりを持ちながら、沖縄の医療界や社会の中で様々な「連携」していくための橋渡し役として、その役割を果たすことができるのではないかと考えています。そのためにも、母校、琉大医学部の発展と沖縄の医療の将来について真剣に考える同窓生の中から、今後もっと多くの母校の教授が誕生してくれることを同窓会として心から願いたいと思います。

同窓会に対する会員の皆様のこれからより一層のご理解とご支持、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。